千西一遇 速報

発行２０１８年７月２３日
上田西高校新聞委員会
編集局長　下形亮人

写真＝宮島純夏
文＝下谷梓

上田西、あと一歩及ばず

全国高等学校野球選手権長野大会決勝戦

上田西	２０００００１００	３
佐久長聖	１０００００３０×	４

１回表、塚田の内野ゴロの間に生還する荒井。佐久長聖にプレッシャーをかける２点目となった。

ライバル佐久長聖に惜敗

第１００回全国高等学校野球選手権長野大会の決勝が７月22日（日）に松本市野球場で行われ、上田西高校は佐久長聖高校と対戦した。上田西、佐久長聖は共に今春の大会のシード校（上田西第２シード、佐久長聖第１シード）。共に２回戦から参戦して順調に勝ち進んできた。上田西はライバル佐久長聖を倒して甲子園へ行くため、佐久長聖は昨夏に味わった悔しさを晴らすためそれぞれ練習を積み重ねてきた。そしてついに迎えた決勝戦。上田西にとっては３年ぶりとなる決勝戦となった。試合は上田西が先制するも佐久長聖に逆転され悔しい準優勝となった。

先制も、終盤に逆転許す

試合はいきなり動く。１回表、上田西の攻撃は１番斎藤慶喜がいきなり内野安打で出塁。続く２番荒井朋範もエラーで出塁し無死１、２塁とした。そして打席には準決勝松本国際高校戦のヒーロー３番宮坂愛斗。期待のかかる場面で宮坂は見事右前適時打を放ち先制点を決める。さらに続く４番塚田純平の内野ゴロの間に３塁走者が生還し２対０と初回で２点先取した。その裏、佐久長聖の４番西藤に適時打を打たれ１点を取られるも、２対１で上田西がリードを保ったまま試合は終盤を迎える。

そして迎えた７回表、上田西のエース横尾が自ら適時打を放ち３対１とさらにリードを広めた。しかしその裏に佐久長聖の誇る超重量打線が爆発。連続適時打を浴び３対４と逆転を許した。１点追いかける上田西は最後まであきらめず、果敢に攻めるも及ばず激闘の末佐久長聖に３対４で惜敗した。

編集後記

．球児にとっての夢の舞台、高校３年間毎日必死で追い続けた甲子園まであと１歩だった。良きライバル佐久長聖相手に１点差まで追い詰めたものの、惜敗。決勝戦にふさわしいとても素晴らしい試合だった。上田西の佐久長聖との戦いの物語は後輩に受け継がれていく。for the teamの精神で頑張れ上田西高校野球部！（下谷梓）

．硬式野球部のみなさんお疲れ様でした。全ての試合が感動的で私は見ていて勇気をもらえることができました。今年味わった悔しい思いは来年に繋がると思います。これからもがんばって下さい。応援しています。（小松鈴音）

．私は全試合主にカメラマンとして取材をさせてもらいました。選手の皆さんが１試合１試合本当に楽しそうに野球をしている様子が印象に残っています。本当に悔しいと思いますが３年生のみなさんは次のステージで頑張って下さい。１、２年生の皆さんは来年こそは甲子園出場を果たして下さい。（宮島純夏）